

社長会見・記者懇談会

住友ファーマ株式会社

代表取締役社長 木村 徹

2024年8月8日

■ 将来予測に関する事項

- 本資料には、当社グループに関する業績その他の予想、見通し、目標、計画その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しています。
- したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標などが記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、開発の成否・進捗その他の見通しなどが記載内容と大きく異なる結果となる可能性があります。
- 医薬品・医療機器（開発中のものを含む）に関する情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2024年度1Q決算概要

2024年度第1四半期 経営成績（コアベース）

業績予想は変更なし

金額単位：億円

	2023年度 1Q実績	2024年度 1Q実績	増減			2024年度	
			金額	うち 為替影響	%	5/14予想	進捗率%
売上収益	757	907	150	72	19.8	3,380	26.8
売上原価	304	349	45	25	14.9	1,380	25.3
売上総利益	453	557	105	47	23.1	2,000	27.9
販売費及び一般管理費	618	438	△180	38	△29.2	1,690	25.9
研究開発費	228	128	△100	6	△43.8	500	25.6
その他の収益・費用（コア内）	59	△0	△59	—		200	
コア営業利益	△335	△9	326	0	—	10	—
非経常項目（△：損）	△181	△22	159			△10	
営業利益	△516	△31	485		—	0	—
金融収益・費用	205	203	△2			△180	
税引前四半期（当期）利益	△311	172	483		—	△180	
法人所得税	78	13	△65			△20	
四半期（当期）利益	△389	159	548		—	△160	—
親会社の所有者に 帰属する四半期（当期）利益	△389	159	548		—	△160	—

【平均レート】

2023年度1Q実績：1\$ =137.50円 1元=19.57円

2024年度1Q実績：1\$ =155.86円 1元=21.48円

2024年度予想：1\$ =145.00円 1元=20.00円

【期末日レート】

2024年3月末：1\$ =151.33円 1元=20.84円

2024年6月末：1\$ =161.03円 1元=22.05円

- 基幹3製品の伸長等により、売上収益が増加
- 事業構造改善効果の発現や研究開発投資の選択と集中による削減等により、販売費及び一般管理費ならびに研究開発費が大きく減少
- その他の収益・費用の主な内訳
（前期）
住友ファーマアニマルヘルス社の株式譲渡
- 非経常項目の主な内訳
（当期）
北米事業構造改善費用
（前期）
北米事業構造改善費用

2024年度1Q決算概要

■主要製品売上収益（北米）

	2023年度 1Q実績	2024年度 1Q実績	増減	2023年度 1Q実績	2024年度 1Q実績	増減			2024年度		
				金額	うち 為替影響	%	5/14予想		円ベース 進捗率%		
北米	百万ドル			億円					百万ドル	億円	
オルゴビクス	68	108	40	93	168	74	20	79.7	400	579	29.0
マイフェンブリー	13	19	6	18	30	12	4	67.7	124	179	16.8
ジェムテサ	63	78	15	87	121	34	14	39.3	380	550	22.1
アプティオム	58	65	7	79	102	22	12	27.9	201	291	34.9
リサイミック	11	11	△0	15	17	2	2	13.4	49	72	23.6
その他	12	20	7	17	31	14	3	80.2	216	316	25.5
輸出、一時金収入等 ※	33	32	△1	45	50	5	6	11.1			
合計	258	332	75	355	518	164	61	46.1	1,370	1,987	26.1

※ 主な一時金収入等

2023年度 1Q	ファイザー社との提携に関する繰延収益	\$29M	2024年度 1Q	ファイザー社との提携に関する繰延収益	\$29M
--------------	--------------------	-------	--------------	--------------------	-------

＜参考＞
基幹3製品の1Q計画比
(百万ドル)

計画	実績	%
86	108	125.5
22	19	88.4
79	78	98.2

- 基幹3製品は概ね計画通りに伸長
- アプティオムはリベートの精算等により増収

【平均レート】
2023年度1Q実績：1\$ =137.50円
2024年度1Q実績：1\$ =155.86円

2024年度1Q決算概要

■主要製品売上収益（日本・アジア）

金額単位：億円

	2023年度	2024年度	増減		2024年度	
	1Q実績	1Q実績	金額	%	5/14予想	進捗率%
日本						
エクア・エクメット	82	74	△8	△10.0	263	28.0
ラツーダ	28	34	5	18.3	130	25.9
ツイミグ	12	17	6	49.6	113	15.3
メトグルコ	19	19	0	0.5	74	25.9
ロナセンテープ	9	11	2	26.3	44	25.5
トレリーフ	44	15	△30	△67.0	21	69.8
AG品	23	28	5	20.2	111	25.3
その他	68	51	△16	△23.9	247	29.1
輸出、一時金収入等	19	21	2	10.4		
合計	304	270	△34	△11.2	1,003	26.9
アジア						
メロペン（中国）	44	64	19	43.0	212	30.0
その他	54	55	1	2.3	178	31.1
合計	99	119	20	20.6	390	30.5

日本

- ラツーダ、ツイミグ、ロナセンテープは引き続き伸長
- トレリーフは独占販売期間終了により減収
- セグメント全体の薬価改定影響△17億円

アジア

- メロペン（中国）は集中購買の影響もありながら売上増加

（注）日本セグメントの各品目別の売上収益は、仕切価ベースで記載

■住友ファーマ取締役の新体制



代表取締役社長
木村 徹



代表取締役 副社長執行役員
酒井 基行
(経営企画、コーポレートガバナンス、
人事、経理統括)



取締役 執行役員
中川 勉
(スミトモファーマ・アメリカ社
President and CEO)



取締役 (非常勤)
新沼 宏



取締役 (社外)
新井 佐恵子



取締役 (社外)
遠藤 信博



取締役 (社外)
碓井 稔



取締役 (社外)
藤本 康二

売上収益の拡大・コスト削減・将来の成長シーズの確保
2024年度コア営業利益黒字化の必達

■がん領域

nuvisertib (TP-3654)

効能

骨髄線維症

特徴

- がん細胞の増殖を抑制
- 高い安全性
- 標準療法との併用による大型化期待

開発段階・予定

- フェーズ1/2試験実施中（日本・米国）
（2024年度1Qに米国で併用パートを開始）
- 2027年度上市予定（日本・米国）

その他

- 2022年5月FDAからオーファンドラッグ指定

ピーク時売上：1,000億円規模を期待

- GSK社とモメロチニブ*の臨床協力契約の締結
（フェーズ1/2試験においてnuvisertibとモメロチニブ*との併用を評価するため）

enzomenib (DSP-5336)

効能

急性骨髄性白血病

特徴

- 白血病細胞の増加を抑制
- 高い安全性

開発段階・予定

- フェーズ1/2試験実施中（日本・米国）
- 2026年度上市予定（日本・米国）

その他

- 2022年6月FDAからオーファンドラッグ指定

ピーク時売上：500億円規模を期待

- 欧州血液学会2024口頭発表（2024年6月）
- FDAからファストトラック指定（2024年6月）

enzomenib (DSP-5336) : 急性白血病のフェーズ1/2試験 (中間結果)

試験概要

- 非盲検、用量漸増、単剤投与、フェーズ1/2試験
- 対象患者：再発または難治性の急性白血病患者
- 主な目的：安全性（フェーズ1パート）および有効性（フェーズ2パート）の評価
- 目標症例数：70～90例（フェーズ1パート）、検討中（フェーズ2パート）

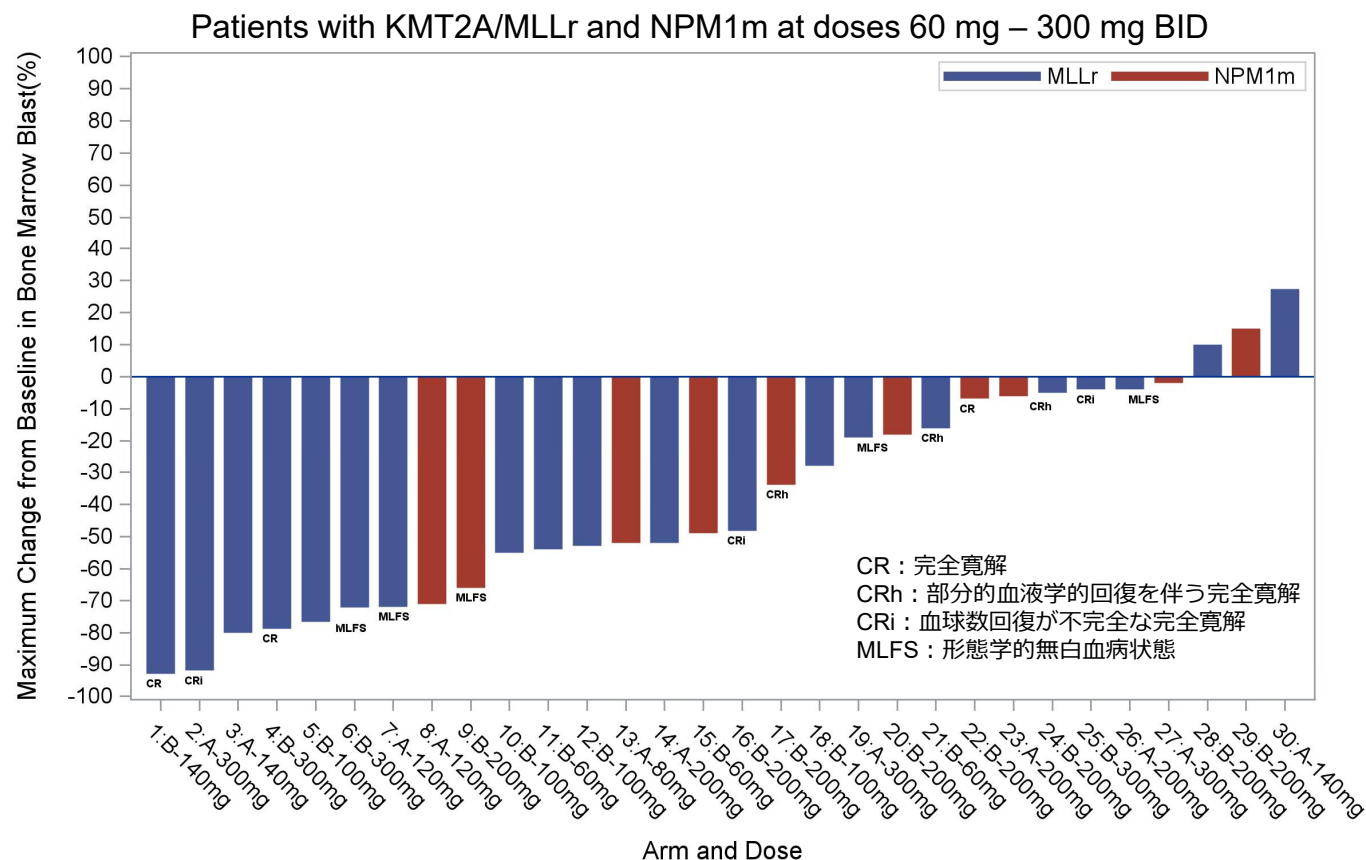
安全性（評価対象：57例）

- 用量制限毒性（DLT）は観察されず、忍容性は良好であった
- 治療関連の心毒性の所見、治療関連の投与中止や死亡例は認められなかった
- 分化症候群の予防は必要とされておらず、5.7%（57名中3名）で報告されたが、いずれもマネジメント可能であり、死亡や投与中止には至らなかった

有効性（評価対象：21例*）

*1日2回140mg以上投与され、enzomenib標的変異（MLLrまたはNPM1m）を持つ患者（他のメニン阻害剤の投与歴がある患者は除く）

- 客観的奏効（OR）：57%（21名中12名）
- 完全寛解または部分的血液学的回復を伴う完全寛解（CR/CRh）：24%（21名中5名）



**全ての用量レベルにおける
MLL再構成（MLLr）またはNPM1変異（NPM1m）陽性患者で
一貫した芽球減少が見られた**

再生・細胞医薬事業 上市・開発品目一覧（2024年7月31日現在）

販売名/細胞種 開発コード	適応疾患	JP/ US	Pre-clinical	臨床研究	Phase 1/2	Phase 3	承認申請	承認→販売
リサイミック	先天性無胸腺症	US						
ドパミン神経前駆細胞 (他家iPS細胞由来) CT1-DAP001/ DSP-1083	パーキンソン病	JP US			  			上市目標* (2024年度)
網膜色素上皮細胞 (他家iPS細胞由来) HLCR011	網膜色素上皮裂孔	JP						
網膜シート(立体組織) (他家iPS細胞由来) DSP-3077	網膜色素変性	JP US						
神経前駆細胞 (他家iPS細胞由来)	脊髄損傷	JP US						
ネフロン前駆細胞 (立体臓器) (自家/他家iPS細胞由来)	腎不全	JP/ US						

1. 京都大学医学部附属病院 2. 神戸アイセンター病院 3. 慶應義塾大学病院 4. カリフォルニア大学サンディエゴ校 5. 企業治験 * 条件及び期限付承認を前提

■対象疾患：パーキンソン病

■ 日本

	医師主導治験
被験細胞	CT1-DAP001（生細胞）
開発段階	フェーズ1/2
治験デザイン （目標症例数）	単施設、非遮蔽、非対照（7名）
主要評価項目	有害事象の発現頻度と程度
副次評価項目 （有効性）	運動症状評価

- 京都大学での2年の観察期間が2023年末に終了し、医師主導治験のデータを基に、承認申請に向けてPMDAと事前の相談を開始するなど、申請準備中
- 2024年度中の承認取得・上市を目指す
- 世界初の他家iPS細胞由来製品となる可能性あり

■ 米国

	医師主導治験	企業治験
被験細胞	CT1-DAP001（生細胞）	DSP-1083（凍結細胞）
開発段階	フェーズ1/2	フェーズ1/2
治験デザイン （目標症例数）	単施設、非遮蔽、非対照（7名）	多施設共同、二重盲検、ランダム化（投与観察群・Sharm観察群）（数十名規模）
主要評価項目	有害事象の発現頻度と程度	有害事象の発現頻度と程度
副次評価項目 （有効性）	運動症状評価	運動症状評価

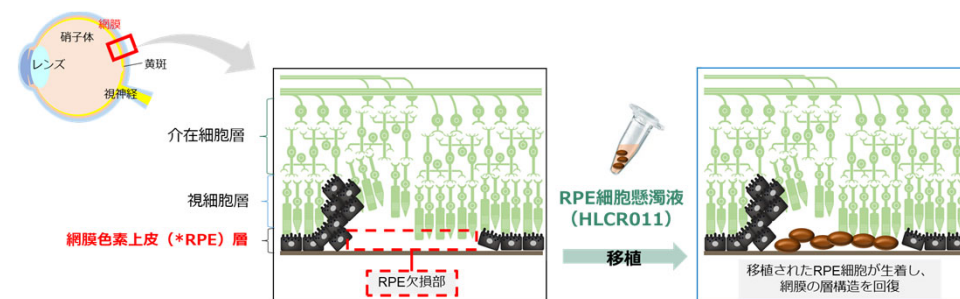
- 治験用の細胞はいずれもSMaRTで製造し、米国へ輸送・提供予定
- 医師主導治験は生細胞を、企業治験では凍結細胞を用い、有効性と安全性を比較した上で、治療により即した製品形態を選択する

2030年代にはグローバルで1,000億円超の事業規模を目指す

■対象疾患：網膜色素上皮裂孔

■日本

	企業治験
被験製品	HLCR011：iPS細胞由来網膜色素上皮（RPE）細胞懸濁液
開発段階	フェーズ1/2
治験デザイン (目標症例数)	多施設共同、非遮蔽、ランダム化 Part 1：非遮蔽、非対照（HLAミスマッチ被験者1名） Part 2：非遮蔽、ランダム化（投与群、観察群 各群10名、計20名）
主要評価項目	網膜色素上皮裂孔患者にHLCR011を網膜下投与したときの安全性 (有害事象の発現者数および割合)
副次評価項目 (有効性)	視機能評価



網膜色素上皮裂孔：

- ・ 加齢黄斑変性等に起因し、網膜色素上皮（RPE）細胞層が断裂、収縮し部分的に欠損する病態
- ・ 視野の欠損や、視力低下を引き起こすが、現在、本病態に対する治療法は確立されていない。RPE細胞が欠損しているが視細胞の機能が保たれている場合、RPE細胞移植による視機能の維持・回復が期待できる

国内での網膜色素上皮裂孔の患者数：年間約3,000人（当社試算）

進捗状況

- ・ 九州大学病院にて、Part1で最初の被験者に移植を実施済み

上市目標時期（条件及び期限付承認を前提）：2028年度

- ・ 結果次第ではあるが、顕著な有効性が認められれば、本臨床試験のみでの承認申請の可能性もある

2024年度1Q決算概要

■主要製品売上収益（日本・アジア）

金額単位：億円

	2023年度	2024年度	増減		2024年度	
	1Q実績	1Q実績	金額	%	5/14予想	進捗率%
日本						
エクア・エクメット	82	74	△8	△10.0	263	28.0
ラツーダ	28	34	5	18.3	130	25.9
ツイミーグ	12	17	6	49.6	113	15.3
メトグルコ	19	19	0	0.5	74	25.9
ロナセンテープ	9	11	2	26.3	44	25.5
トレリーフ	44	15	△30	△67.0	21	69.8
AG品	23	28	5	20.2	111	25.3
その他	68	51	△16	△23.9	247	29.1
輸出、一時金収入等	19	21	2	10.4		
合計	304	270	△34	△11.2	1,003	26.9
アジア						
メロペン（中国）	44	64	19	43.0	212	30.0
その他	54	55	1	2.3	178	31.1
合計	99	119	20	20.6	390	30.5

日本

- ラツーダ、ツイミーグ、ロナセンテープは引き続き伸長
- トレリーフは独占販売期間終了により減収
- セグメント全体の薬価改定影響△17億円

アジア

- メロペン（中国）は集中購買の影響もありながら売上増加

（注）日本セグメントの各品目別の売上収益は、仕切価ベースで記載

■ ツイミーグ® : 製造販売後臨床試験（速報）

✓ 試験概要

- 非盲検、単剤投与またはインスリン製剤を除く他の血糖降下薬1剤との併用投与、製造販売後臨床試験
- 対象患者：腎機能障害（推算糸球体濾過量（eGFR）が45mL/min/1.73 m²未満）を伴う日本人2型糖尿病患者
- 主な目的：安全性および忍容性の評価
- 投与期間：52週間
- 投与被験者数：60名

✓ 安全性（安全性解析対象集団：60名）

- 有害事象：発現割合は68.3%（60名中41名）で、ほとんどは軽度または中等度であった
- 重篤な有害事象：発現割合は16.7%（60名中10名）で、いずれも本剤との因果関係は否定された
- 死亡に至った有害事象：なし
- 投与中止に至った有害事象：6.7%（60名中4名）

**本試験での有害事象の発現割合、種類および重症度は、これまでに実施された臨床試験と大きな違いはなく、
腎機能障害を伴う日本人2型糖尿病患者で、本剤の安全性および忍容性が示された
eGFRが45mL/min/1.73m²未満の腎機能障害患者への投与について、
2024年度に当局に医薬品添付文書改訂の相談を行う予定**

参考資料

参考資料（2024年度1Q決算概要）

セグメント別 経営成績（コアベース）

金額単位：億円

		日本	北米	アジア	合計
2024年度 1Q実績	売上収益	270	518	119	907
	売上原価	132	185	32	349
	売上総利益	138	333	87	557
	販売費及び一般管理費	97	311	30	438
	コアセグメント利益	40	21	57	119
	研究開発費				128
	コア営業利益				△9

2023年度 1Q実績	売上収益	304	355	99	757
	売上原価	147	130	27	304
	売上総利益	156	225	71	453
	販売費及び一般管理費	128	462	28	618
	コアセグメント利益	28	△237	43	△166
	研究開発費				228
	コア営業利益				△335

増減額	売上収益	△34	164	20	150
	販売費及び一般管理費	△31	△151	2	△180
	コアセグメント利益	12	259	14	285
	研究開発費				△100
	コア営業利益				326

日本セグメント

- 減収による売上総利益の減少はあるものの、販売費及び一般管理費の減少により、コアセグメント利益は増益

北米セグメント

- 増収による売上総利益の増加に加え、販売費及び一般管理費の減少により、コアセグメント利益は大きく増益

アジアセグメント

- 増収による売上総利益の増加により、コアセグメント利益は増益

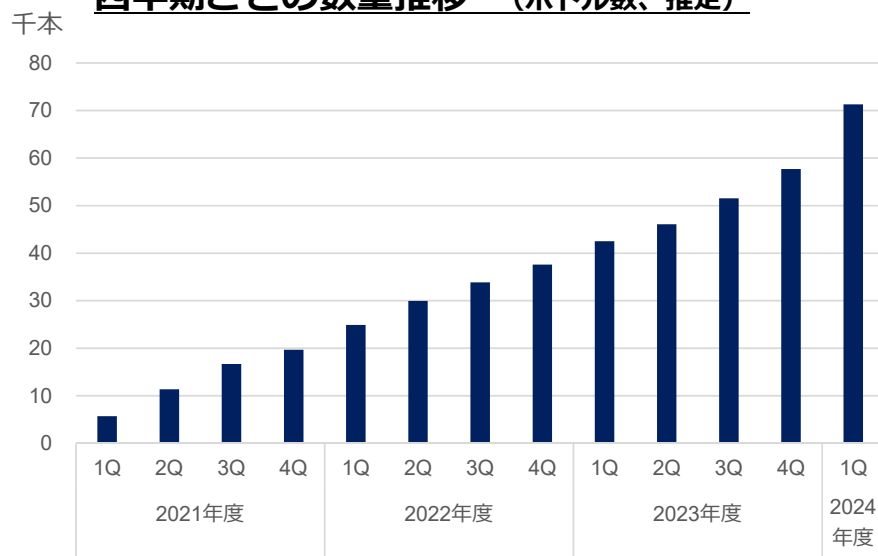
■ オルゴビクス

2024年度 1Q計画	2024年度 1Q実績	前年同期比	実績に対する数量、価格の影響 (対計画)	
\$86M	\$108M (計画達成率 125%)	約59%増	数 量	\$15M
			価 格	\$7M

- アンドロゲン除去療法（ADT）市場内製品シェア*1
2024年6月：オルゴビクス 7%（2024年3月 6%）

- 数量は、メディケアパートDの薬剤給付制度変更の影響により、計画を上回る伸長
価格は、返品およびCoverage Gapの負担が予想より少なかったため、計画を上回った

四半期ごとの数量推移*2（ボトル数、推定）



販売・マーケティング活動のトピックス

- 2024年5月に過去最高の新規処方患者数を記録
- 全医療施設のセグメントでの処方増が確認されており、院内処方の泌尿器科クリニックや大学病院/グループ病院（がん専門医）での伸長が大きい
 - ✓ 2024年1月からのメディケアパートDの薬剤給付制度変更を引き続き患者さんや医療関係者などに訴求
 - ✓ 改訂されたNCCNガイドラインでオルゴビクスが進行性前立腺がんに対するADTの推奨オプションであることの浸透に注力

*1 Source: IQVIAからライセンスされた情報に基づく社内算定（NSP Volume for the period 3/1 to 3/31, 2024 and 6/1 to 6/30, 2024 reflecting estimates of real-world activity. All rights reserved.）

*2 社内算定

参考資料（2024年度1Q決算概要）

■マイフェンブリー



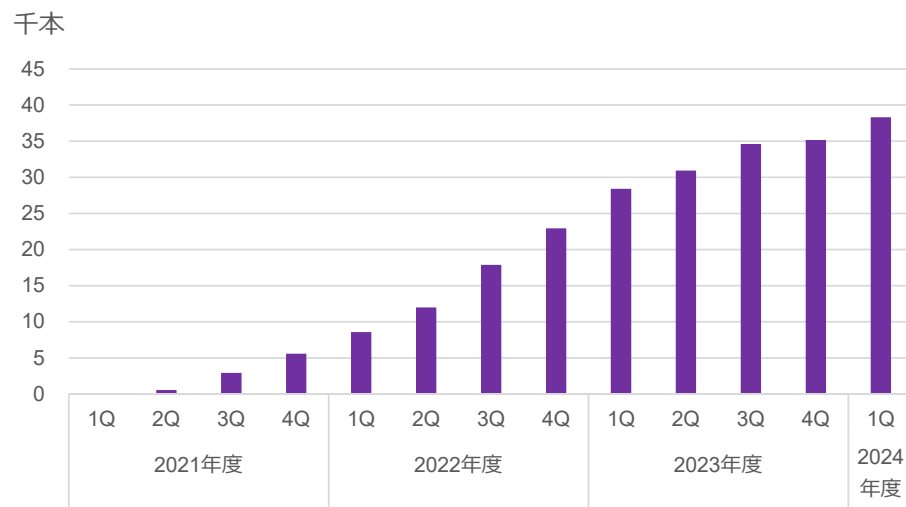
2024年度 1Q計画	2024年度 1Q実績	前年同期比	実績に対する数量、価格の影響 (対計画)	
\$22M	\$19M (計画達成率 88%)	約46%増	数 量	△\$3M
			価 格	\$1M

■ 経口GnRH阻害剤処方箋シェア*1 2024年6月

- ✓ 処方箋枚数（TRx）47%（UF*2: 87% EM*3: 22%）
（2024年3月 44%、84%、20%）
- ✓ 新規処方箋枚数（NBRx）50%（UF: 92% EM: 21%）
（2024年3月 47%、91%、20%）

- 数量は、GnRH阻害剤市場の拡大および子宮内膜症におけるシェア拡大が計画を下回ったことにより未達
価格は、Co-payカードの費用が計画を下回ったため、良好

四半期ごとの数量推移*4（ボトル数、推定）



販売・マーケティング活動のトピックス

- シェア1位獲得のための戦略を継続しており、2024年5月には経口GnRH阻害剤処方箋シェア NBRx（子宮筋腫および子宮内膜症の市場合計）において、初のシェア1位を獲得
- 2024年3月の子宮内膜症啓発月間に合わせて子宮内膜症の患者向け広告キャンペーンを展開した結果、子宮内膜症関連のウェブ検索とマイフェンブリーのウェブサイト閲覧が急増

*1 Source: Symphony Health, an ICON plc Company, Metys®, June 1, 2024, to June 30, 2024 and March 1, 2024 to March 31, 2024.、*2 子宮筋腫、*3 子宮内膜症、*4 Source: Symphony Health, an ICON plc Company, Metys®, April 1, 2021, to June 30, 2024.

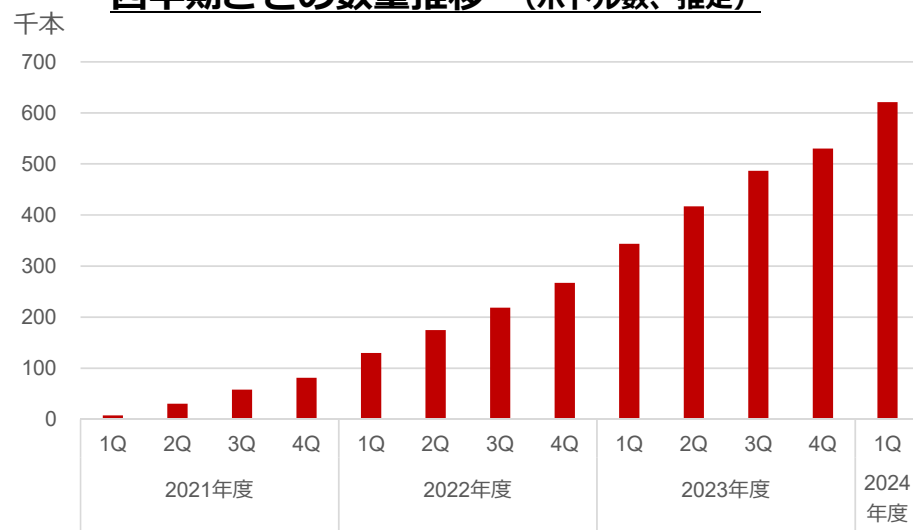
ジェムテサ

2024年度 1Q計画	2024年度 1Q実績	前年同期比	実績に対する数量、価格の影響 (対計画)	
\$79M	\$78M (計画達成率 98%)	約23%増	数 量	△\$3M
			価 格	\$2M

- β3作動薬内処方箋シェア*¹ 2024年6月
処方箋枚数（TRx） 28%、新規処方箋枚数（NBRx） 26%（2024年3月 25%、35%）

- 数量は、概ね計画通りであるが、薬局以外のチャネルでやや計画を下回った
価格は、返品およびCoverage Gapの負担が予想より少なかったため、良好

四半期ごとの数量推移*²（ボトル数、推定）



販売・マーケティング活動のトピックス

- 2024年4月にミラベグロン後発品が発売されたが、ジェムテサの数量は伸長し続け、2024年5月に過去最高を記録（2024年度1Q時点では、2024年度予想の修正はない）
- OAB患者さんの約60%が高血圧症を合併しており、ジェムテサに高血圧の警告がないことを訴求

*¹ Source: IQVIAからライセンスされた情報（NPA for the period 3/1 to 3/31, 2024 and 6/1 to 6/30, 2024 reflecting estimates of real-world activity. All rights reserved.）

*² Source: IQVIAからライセンスされた情報（NPA for the period 4/1, 2021 to 6/30, 2024 reflecting estimates of real-world activity. All rights reserved.）の錠数をボトル数（30錠/ボトル）に換算

2024年度の主なイベント／目標（2024年7月31日現在）

2024年5月以降の変更部分は赤字で示しています

精神 神経

- ☐ 他家iPS細胞由来製品（パーキンソン病）：日本での申請
- ☐ 他家iPS細胞由来製品（パーキンソン病）：日本での承認取得
- ☐ 他家iPS細胞由来製品（パーキンソン病）：米国での最初の被験者への投与
- ☐ 他家iPS細胞由来製品（網膜色素上皮裂孔）：日本でのフェーズ1/2試験のランダム化パートの開始
- ☐ 初期開発品の開発推進

がん

- ☐ nuvisertib（TP-3654）（☐ フェーズ1/2試験の推進 ☒ JAK阻害剤との併用パートの開始）
- ☐ enzomenib（DSP-5336）（☐ フェーズ1/2試験の推進 ☐ 単剤のピボタルパートの開始）
- ☐ SMP-3124（☐ 米国でのフェーズ1/2試験の推進 ☒ 日本での同フェーズ1/2試験の開始）

その他

- ☐ ビベグロン：前立腺肥大症を伴う過活動膀胱（OAB）の米国での承認取得
- ☐ ユニバーサルインフルエンザワクチン等の初期開発品の開発推進

フロンティア

- ☐ 既存テーマ推進、上市製品の価値最大化を目的としたエビデンス構築

参考資料（研究開発）

■主な開発品目一覧（2024年7月31日現在）

2024年5月以降の変更部分は赤字で示しています

 ：精神神経領域 ：がん領域 ：その他領域

地域	フェーズ1		フェーズ2	フェーズ3	申請
日本	DSP-0187 (ナルコレプシー)	nuvisertib (TP-3654) (骨髄線維症)	他家iPS細胞由来製品 (パーキンソン病／医師主導治験)		
	DSP-0378 (ドラベ症候群、 レノックス・ガストー症候群)	enzomenib (DSP-5336) (急性白血病)	他家iPS細胞由来製品 (網膜色素上皮裂孔)		
		DSP-0390 (膠芽腫)			
		SMP-3124 (固形がん)			
		KSP-1007 (複雑性尿路・腹腔内感染症、 院内肺炎)			
米国	DSP-0038 (アルツハイマー病に伴う 精神病症状)	nuvisertib (TP-3654) (骨髄線維症)	他家iPS細胞由来製品 (パーキンソン病／ 医師主導治験・企業治験)		ジェムテサ (ビベグロン) (新効能：前立腺肥大症を伴う 過活動膀胱)
	DSP-3456 (治療抵抗性うつ)	enzomenib (DSP-5336) (急性白血病)			
	DSP-2342 (未定)	DSP-0390 (膠芽腫)			
		SMP-3124 (固形がん)			
		KSP-1007 (複雑性尿路・腹腔内感染症、 院内肺炎)			
中国				ビベグロン (過活動膀胱)	
欧州	fH1/DSP-0546LP (インフルエンザ)				

参考資料（研究開発）

製品上市目標（2024年7月31日現在）

精神神経領域 がん領域 その他領域

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
他家iPS細胞由来 ドパミン神経前駆細胞 (CT1-DAP001/DSP-1083)	パーキンソン病 	米国開発			
他家iPS細胞由来 網膜色素上皮細胞 (HLCR011)					網膜色素上皮裂孔  適応拡大
enzomenib (DSP-5336) (メニン-MLL結合阻害剤)			急性骨髄性白血病  	適応拡大	
nuvisertib (TP-3654) (PIM1キナーゼ阻害剤)				骨髄線維症  	販売国拡大
ジェムテサ (β3アドレナリン受容体作動薬)	前立腺肥大症を伴う 過活動膀胱 			過活動膀胱 	
lefamulin (プレウロムチリン系抗菌薬)	市中肺炎* 				

*上市目標時期を見直し中

参考資料（研究開発）

製品上市目標（フロンティア事業）（2024年7月31日現在）

2024年5月以降の変更部分は赤字で示しています

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
VRコンテンツ (BehaVR社)			社交不安障害 	その他適応でのVRコンテンツ	
MELTz®		「MELTz® Portable」 (手指運動トレーニングシステム) 			
ウェアラブル脳波計 (株ニューロスカイ)		うつ 		うつ 	
バイオレットライト (株坪田ラボ)		うつ・認知症 		うつ・認知症 	

当社の連結子会社であるFrontAct社が、(株)メルティンMMIからメディカル事業を譲受したため、MELTz®の連携先から同社を削除しました

